

新医療センター市民説明会 質問・意見票によるご意見

No.	質問・意見の内容	質問・意見に対する回答
1	市民の十分な理解と納得を得る前に6月議会で関連予算案を提案しようとする動きは強引に見える。市長は一旦立ち止まるの意味を理解していないようだが、肝心の医師確保策が不透明な今、早急に取り組む問題ではない。丁寧に進める責任があるのではないか。	2040年問題への対応や水沢病院の老朽化・耐震強化は待ったなしの課題と捉えており、少しでも早く整備に向けて前進する必要があると考えております。 市民説明会では、市の説明に対する疑問や不安の声を多くいただきましたが、建設そのものへの明確な反対意見は少なく、新病院の必要性自体については、一定の理解が得られたと受け止めております。 今後のスケジュールにつきましては、パブリックコメントの結果等を踏まえて最終的に判断いたします。
2	まだまだ多くの課題があるため、現場の医師と共に基本計画の検討を行う必要があるのではないか。その上で、市民や医師会など専門家を交えながら、持続可能で信頼される医療体制の構築に向けて、公開で議論できる場の設置が急務ではないか。	整備事業を前進させながら、在宅医療や不足する診療科への対応など、地域医療の各種課題に取り組むべく、地域の医療関係者との協議や連携を進めてまいりたいと考えております。 また、市民説明会で出された疑問点や不安点は、次の基本設計のステージで詳細に検証し、その解消を図ってまいります。
3	年間1億円で30年かけて返済するとの説明だったが、この計画が予定どおり進まなかった場合、不足分はどのように捻出するのか。（市民の負担が増えるのではないか）	市の財政の仕組みとして、市の支出は市の収入の範囲内で賄うことになっています。少なくとも、増税などにより市民の負担が直接増えることはありません。
4	水沢病院関係者は、どのように考えているのか。	新医療センターの整備については、水沢病院長及びまごころ病院長を含む内部検討組織等により議論を重ねてまいりました。 また、基本計画の部門別計画には、水沢病院等のワーキンググループによる現場の意見を反映させたほか、若手職員を対象に開催したワークショップでの率直な意見を参考にするなど、よりよい施設となるよう職員一丸となり進めております。

新医療センター市民説明会 質問・意見票によるご意見

No.	質問・意見の内容	質問・意見に対する回答
5	収支を含め改めて示された計画案に、基本的に肯定の立場で次のとおり補強することを提言する。 新医療センターのビジョンを明確化し、その必要性を信念と自信を持って強調すること。特に、水沢以外の市民には、「新医療センター」と名前を変えるだけで、水沢病院の建替えをするためだろうという誤解をしている人が多くいる。この人たちに理解し支持してもらうためには、粘り強く丁寧に道理を尽くして誠実に説明を続けることが肝要ではないか。	市民に正しく理解してもらえよう、いただいたご意見を参考に今後の説明等に活かしてまいります。
6	分娩機能の設置を望む。	分娩機能の設置は、県の周産期母子医療センターの維持すら難しい状況であるため、極めて困難な状況です。 市としましては、新医療センターを拠点として、健診体制や産後ケアの強化など、妊産婦の不安と負担感を解消するための施策の充実を図ってまいります。
7	横文字を多用しているが、市民が容易に理解できるよう配慮願いたい。例えば、ダウンサイジング、プレコンセプションケア、フレイル対策、DXなど。	今後の資料作成や説明時には、用語解説を付けるなど配慮してまいります。
8	何名の医師で運営する計画なのか。専門医の確保次第では病院は成り立たない。	資金収支シミュレーションでは、14名で試算しております。今後も引き続き積極的な医師確保に努めてまいります。
9	公立病院の統廃合を優先し、胆沢病院を頂点とした医療体制を確立してほしい。胆沢病院と水沢病院の統合から話を進めるべき。	胆沢病院には、これまで通り基幹病院としての役割を担っていただき、その上で、5つの市立医療施設、県立病院、民間医療施設との連携を強化していきたいと考えております。
10	中間案の資料から大きく具体的になった印象を受けた。子育て世代からすると、課題はあると思うが、早急に進めてほしい。	早期に進められるよう取組んでまいります。

新医療センター市民説明会 質問・意見票によるご意見

No.	質問・意見の内容	質問・意見に対する回答
11	新医療センター整備の前に、人口減少対策など市が消滅しないよう早急に強力な取り組みが必要だと思う。	人口減少は喫緊の課題と捉えており、市としても様々な取り組みを行っているところです。 新医療センターの整備による安定的な地域医療の提供も、人口対策につながるものであることから、人口減少対策と並行して進めてまいります。
12	現在の水沢病院は受付や待合室などが暗く、病気を治そうという気持ちが上がって来ない。明るい病院をつくってほしい。	今後の施設整備の参考とさせていただきます。
13	明るく活気のある病院であれば、医師の労働環境も良くなるため、医師確保面で有利になるのではないかと。	人口減少による医療人材不足は地域医療における大きな課題であると捉えています。新医療センターではデジタル技術の活用による自動化・省力化のほか、アメニティの充実も図る予定であり、このようなより働きやすい環境は、医師や医療スタッフの確保にも有利に働くものと考えております。
14	コロナ禍、民間医療施設では受け入れてもらえなかったが、市立病院は強い味方になってくれる。頼れる病院あってほしい。	新興感染症の対応については、市立病院の役割のひとつであると考えており、新医療センターでもその機能を維持してまいります。
15	市内に産科はないが、様々な支援（タクシー、宿泊等）が大変ありがたかった。	分娩機能の設置はできませんが、産前産後サポートをより充実させ、子育てにより手厚い支援を行ってまいります。

新医療センター市民説明会 質問・意見票によるご意見

No.	質問・意見の内容	質問・意見に対する回答
16	まごころ病院では、胆沢地域以外も訪問診療してくれる。高齢化社会に向けて、緩和ケア入院とは別に、寄り添える医療も大切ではないか。	ご指摘のとおり、高齢化の進展によって、在宅医療などの寄り添う医療は今後ますます重要になると考えております。新医療センターを一つの拠点として、高齢者の医療や健康を地域全体で支える仕組みを構築してまいります。
17	小児科医の死守について 障がい児や極小未熟児で出生後の虚弱体質、学童期や思春期に発症した白血病等治療中のお子さんがいるのではないかと。発達や療養相談での子育て支援を。	小児科は現状を維持しつつ、さらにニーズに沿った形で運営できるよう検討していきたいと考えております。
18	人の利を活かした地域包括ケアシステムの充実 胆沢病院、江刺病院の運営等を担当してきた県医療局OBを採用し、市医療局と建設準備室職員への支援や県との橋渡し役として、重層的な体制で新医療センター建設・運営に着手してほしい。将来的な視野としては高度急性期を磐井病院ではなく胆沢病院に開設戴くこと、江刺病院の有床化を死守するためにも。	地域包括ケアシステムの充実には、医療と介護の連携体制の構築、情報や人のネットワーク化などが重要であると捉えております。これらを実現するため、今後、関係機関との協議を進めてまいりたいと考えております。意見として承り今後の事業推進の参考とさせていただきます。